令和4年度 産業経済研究委託事業
ＳＸの普及促進に関わる
調査に関する報告書

日経イベント・プロ

Nikkei Events Pro

目　次

１．ＳＸ普及に向けた調査の結果概要・・・・・　P.２－P.５

２．シンポジウムの結果概要・・・・・・・・・　P.６－P.１７

３．今後のＳＸの実現への課題等・・・・・・　P.１８

４．二次利用未承諾リスト

ＳＸ普及に向けた調査の結果概要

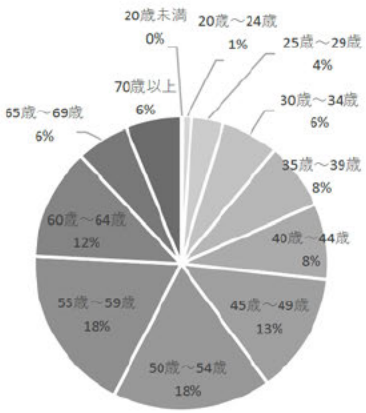
2023年2月10日開催

NIKKEI

令和4年度 産業経済研究委託事業SX普及に向けた調査
【全調査対象者・属性】

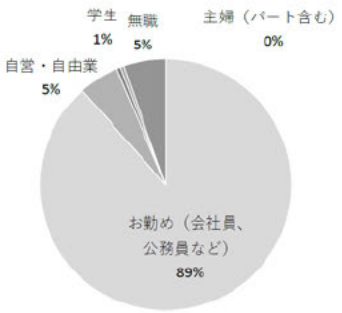
年代

項目名	件数
20歳未満	2
20歳～24歳	14
25歳～29歳	47
30歳～34歳	84
35歳～39歳	99
40歳～44歳	112
45歳～49歳	178
50歳～54歳	235
55歳～59歳	245
60歳～64歳	164
65歳～69歳	78
70歳以上	82



職業・業種等（職業）

項目名	件数
お勤め（会社員、公務員など）	1186
自営・自由業	69
学生	7
主婦（パート含む）	6
無職	72



職業・業種等（業種）

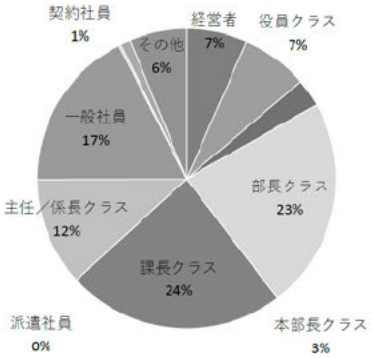
項目名	件数
農林水産・鉱業	7
建設	65
自動車、輸送機器	20
電気、電子機器	177
機械、重電	26
素材	81
食品、医薬、化粧品	93
その他製造	84
エネルギー	34
卸売・小売業・商業（商社含む）	61
金融・証券・保険	167
不動産	25
通信サービス	21
情報処理、SI、ソフトウェア	67
運輸	27
コンサル・会計・法律関連	125
放送・広告・出版・マスコミ	29
公務員（教員を除く）	20
教育・教育学習支援関係	37
医療	3
介護・福祉	3
飲食店・宿泊	2
人材サービス	9
旅行	1
その他	71

職業・業種等（職種）

項目名	件数
経営者・役員	123
経営企画	259
総務・人事	66
財務・経理	28
一般事務	34
情報処理・情報システム	20
広報・宣伝	56
企画・調査・マーケティング	166
営業・販売	82
生産・製造	15
資材・購買	2
配送・物流	2
技術・設計	26
研究・開発	58
編集・編成・制作	8
専門職（建築・土木関連）	7
専門職（医療関連）	2
専門職（会計関連）	34
専門職（法律関連）	21
専門職（教育関連）	15
その他	231

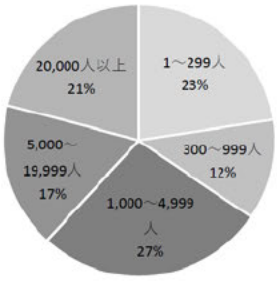
職業・業種等（役職）

項目名	件数
経営者	85
役員クラス	93
本部長クラス	39
部長クラス	296
課長クラス	305
主任／係長クラス	152
一般社員	227
派遣社員	3
契約社員	14
その他	80



職業・業種等（従業員規模）

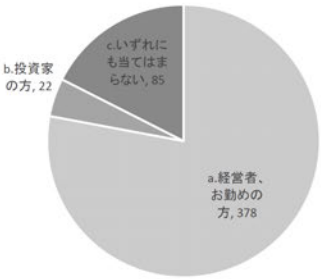
項目名	件数
1～9人	84
10～49人	45
50～99人	53
100～299人	102
300～499人	60
500～999人	89
1,000～2,999人	208
3,000～4,999人	135
5,000～9,999人	130
10,000～19,999人	87
20,000人以上	262



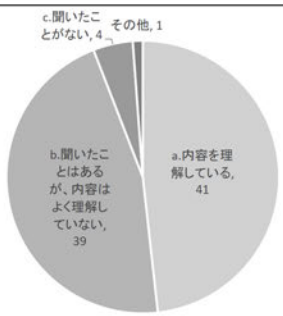
ＳＸ普及に向けた調査の結果概要

【SX普及に向けた調査回答　485件】

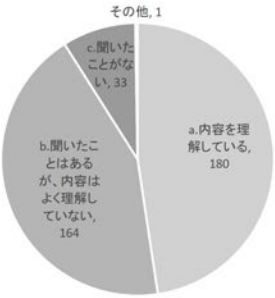
Q1.当てはまる職業をお選びください。	
項目名	件数
a.経営者、お勤めの方	378
b.投資家の方	22
c.いずれにも当てはまらない	85



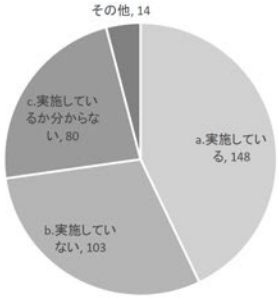
Q2.【Q1でcと回答した方向け】 SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）とは何か、 知っていますか？（ESGやSDGsとの違いを理解していますか？）	
項目名	件数
a.内容を理解している	41
b.聞いたことはあるが、内容はよく理解していない	39
c.聞いたことがない	4
その他	1



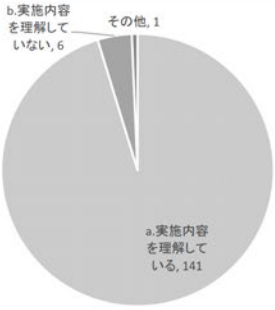
Q3.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】 SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）とは何か、 知っていますか？（ESGやSDGsとの違いを理解していますか？）	
項目名	件数
a.内容を理解している	180
b.聞いたことはあるが、内容はよく理解していない	164
c.聞いたことがない	33
その他	1



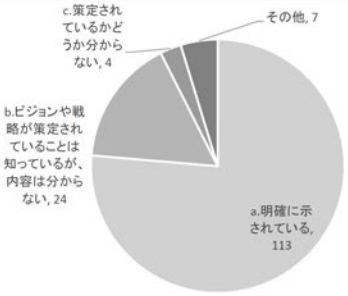
Q4.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】 お勤め先でSXの取り組みは実施されていますか？	
項目名	件数
a.実施している	148
b.実施していない	103
c.実施しているか分からない	80
その他	14



Q5.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】 お勤め先におけるSXの取り組み内容を理解しています	
項目名	件数
a.実施内容を理解している	141
b.実施内容を理解していない	6
その他	1



Q6.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】 SXの推進にあたり、ビジョンや戦略は示されていますか？	
項目名	件数
a.明確に示されている	113
b.ビジョンや戦略が策定されていることは知っているが、内容は分からない	24
c.策定されているかどうか分からない	4
その他	7



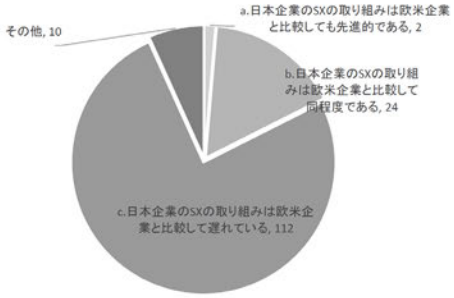
ＳＸ普及に向けた調査の結果概要

Q7.差し支えない範囲で、お取り組み内容をお聞かせください。（回答任意）

回答37件

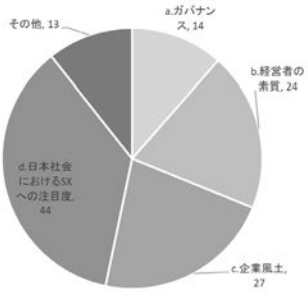
Q8.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】欧米企業と比較して、日本企業のSXの取り組みをどう評価していますか？

項目名	件数
a.日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較しても先進的である	2
b.日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して同程度である	24
c.日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れている	112
その他	10



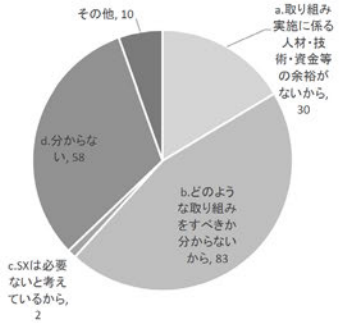
Q9.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】なぜ日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れていると思いますか？

項目名	件数
a.ガバナンス	14
b.経営者の素質	24
c.企業風土	27
d.日本社会におけるSXへの注目度	44
その他	13



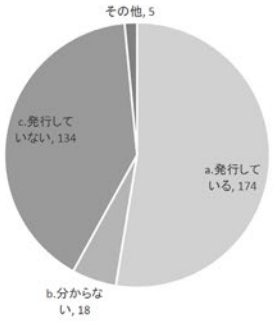
Q10.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】現在、SXへの取り組みを実施していない理由をお聞かせください。

項目名	件数
a.取り組み実施に係る人材・技術・資金等の余裕がないから	30
b.どのような取り組みをすべきか分からないから	83
c.SXは必要ないと考えているから	2
d.分からない	58
その他	10



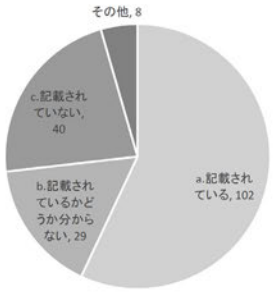
Q11.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】お勤め先で統合報告書は発行していますか？

項目名	件数
a.発行している	174
b.分からない	18
c.発行していない	134
その他	5



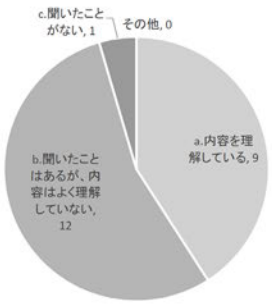
Q12.【Q1でaと回答した経営者、お勤めの方向け】統合報告書の中に、自社のSXへの取り組み状況について記載されていますか？

項目名	件数
a.記載されている	102
b.記載されているかどうか分からない	29
c.記載されていない	40
その他	8

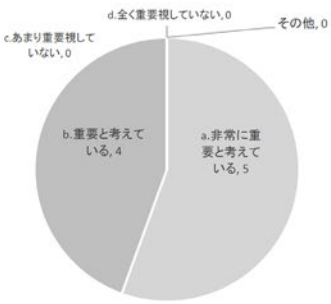


ＳＸ普及に向けた調査の結果概要

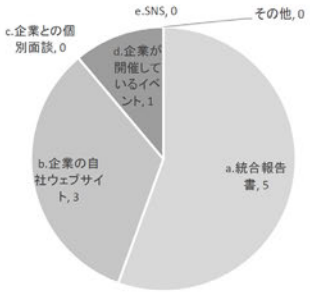
Q13.【Q1でbと回答した投資家の方向け】SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）とは何か、知っていますか？（ESGやSDGsとの違いを理解していますか？	
項目名	件数
a.内容を理解している	9
b.聞いたことはあるが、内容はよく理解していない	12
c.聞いたことがない	1
その他	0



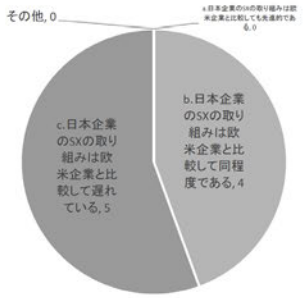
Q14.【Q1でbと回答した投資家の方向け】投資先を判断するにあたり、SXへの取り組みはどの程度重要視されていますか？よろしければ、その他欄に理由をご記入下さい。	
項目名	件数
a.非常に重要と考えている	5
b.重要と考えている	4
c.あまり重要視していない	0
d.全く重要視していない	0
その他	0



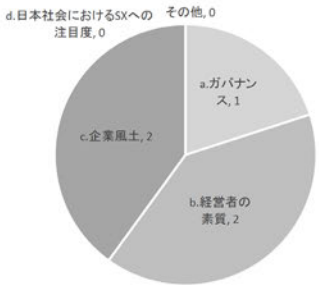
Q15.【Q1でbと回答した投資家の方向け】投資先を判断する際、企業のSXへの取り組み状況についてどのような手段で情報を収集していますか？	
項目名	件数
a.統合報告書	5
b.企業の自社ウェブサイト	3
c.企業との個別面談	0
d.企業が開催しているイベント	1
e.SNS	0
その他	0



Q16.【Q1でbと回答した投資家の方向け】欧米企業と比較して、日本企業のSXの取り組みをどう評価していますか？	
項目名	件数
a.日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較しても先進的である	0
b.日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して同程度である	4
c.日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れている	5
その他	0



Q17.【Q1でbと回答した投資家の方向け】なぜ日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れていると思いますか？	
項目名	件数
a.ガバナンス	1
b.経営者の素質	2
c.企業風土	2
d.日本社会におけるSXへの注目度	0
その他	0



シンポジウム結果概要

【　名　称　】 ＳXシンポジウム　～ＳX推進の未来と企業価値創造～

【　開　催　日　時　】 2023/2/10(金)　13:00～17:30

【　会　場　】 日経ホール
〒100-8066 東京都千代田区大手町１丁目３－７ 日経ビル
（日経ビル3F）

【　主　催　】 日経イベント・プロ、日本経済新聞社

【　共　催　】 経済産業省

【　開　催　形　式　】 ハイブリッド　リアル+LIVE配信

【　参　加　費　】 無料

概　要

持続可能性を基本に、経営の在り方を変革する新たな戦略、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）をテーマにシンポジウムを開催します。

区分	数
視聴ユニーク デバイス数	1,543
事前登録者数	275名（来場） 1,557名（オンライン）
会場来場者数	76名

シンポジウム結果概要

当日プログラム

TIME	内容	
13:00 ～ 13:10	**■開会挨拶** ／経済産業大臣 西村 康稔 氏	
13:10 ～ 13:40	**■基調講演** ／一橋大学 CFO 教育研究センター長 伊藤 邦雄 氏	
13:40 ～ 14:10	**■事例講演①** ／味の素 代表執行役社長 藤江 太郎 氏	
14:10 ～ 14:40	**■事例講演②** ／オムロン 代表取締役社長 山田 義仁 氏	
14:50 ～ 16:10	**■パネルセッション①**	
	◎モデレーター ／一橋大学　CFO 教育研究センター長 伊藤 邦雄 氏	
	◎パネリスト ／経済産業省 経済産業政策局 企業会計室長 長宗 豊和 氏	
	／キリンホールディングス 常務執行役員 溝内 良輔 氏	
	／アストナリング・アドバイザー 代表 三瓶 裕喜 氏	
	／リコー コーポレート執行役員・ESG・リスクマネジメント担当 鈴木 美佳子 氏	

シンポジウム結果概要

TIME	内容	
16:10 〜 17:30	**■パネルセッション②**	
	◎モデレーター ／日本経済新聞社 ESGエディター 松本 裕子 氏	
	◎パネリスト ／三菱UFJリサーチ＆コンサルティング フェロー（サステナビリティ） 東京大学 教養学部 客員教授 吉高 まり氏	
	／日立製作所 理事・サステナビリティ推進本部長 津田 恵 氏	
	／レオス・キャピタルワークス 代表取締役会長兼社長 最高投資責任者（CIO） 藤野 英人 氏	
	／メルカリ 執行役員 VP of Public Policy 兼 Public Relations 吉川 徳明 氏	

シンポジウム結果概要　（日本経済新聞　3月17日朝刊掲載　15段）

SX Sustainability Transformation シンポジウム

～SX推進の未来と企業価値創造～

価値協創の切り札

世界はいま、気候変動への対応、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻などの課題を抱え、時代の大きな転換点にある。これら課題の解決を通じて、企業は持続的な成長に向けた「稼ぐ力」の向上とさらなる価値創出の実現が不可欠だ。そこでサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）を推進するため、経済産業省は2022年8月に「伊藤レポート3.0」を公表、「価値協創ガイダンス2.0」を取りまとめた。2月10日に行われた「SXシンポジウム」では、SXを価値協創の切り札として推進することの重要性や取り組みを紹介、社会課題解決と経済成長の同時達成に向けた道筋を示した。

開会挨拶

西村 康稔 氏
経済産業大臣

今さまざまなサステナビリティ課題に対して、企業は果敢に投資を行い、イノベーションを起こして、持続的な企業価値の向上、SXに取り組むことが求められている。それには人への投資を大胆に行い、多様な人材を生かすことが不可欠だ。経済産業省はこのたび、東京証券取引所と共同で「SX銘柄」を新設した。これを通じて、国内外投資家の再評価を促し、日本株のリバイバルを狙う。官民が連携してSXが目指す社会課題の解決と経済成長の同時達成を推進し、国内投資拡大、イノベーション、所得向上の3つの好循環を実現する。2023年がSX元年になると期待している。

基調講演　SXがなぜ必要か、伊藤レポート3.0より

持続可能性内包した人的資本経営を

伊藤 邦雄 氏
一橋大学
CFO 教育研究センター長

サステナビリティ重視の背景には、3つの悲劇がある。「人類の共有財産である地球の資源を私益化し気候変動が深刻化」「将来世代への配慮不足と短期的投資など長い時間軸を持たない行動の増加」「他者への負のインパクト・帰結を想像しないイマジネーション不足」。こうした悲劇に対し、サステナビリティの発揚によるレジリエントな社会の実現へという世界的潮流が起こり、投資の世界でもリスクとリターンの2軸に社会的インパクトが加わった。

しかし、企業のサステナビリティと社会のサステナビリティとは必ずしも合致しない。このため自利利他の融合と循環・共生思考に基づいた、2つのサステナビリティの同期化を図ろうというのがSXだ。昨年8月公表の伊藤レポート3・0でSXについては詳説したが、同時に公表した価値協創ガイダンス2・0では、企業価値創造ストーリーを統合報告書で語り、投資家との充実した対話を行う重要性に加え、人的資本への投資や人材戦略の重要性を強調した。

SX推進においては、戦略実行の鍵を握る人的資本の情報開示も不可欠になる。SX戦略を担える人材の確保・育成が急務であり、サステナビリティを組み込んだ人的資本経営の実践が成否を分ける。

事例講演

味の素

食と健康を通じ価値創出

藤江 太郎 氏
味の素
代表執行役社長

味の素は、事業を通じた社会課題の解決による社会価値と経済価値の創出「ASV（Ajinomoto Group Creating Shared Value）」経営を推進している。食と健康の課題を解決し、2030年までに環境負荷を50%削減（18年比）、10億人の健康寿命延伸への貢献を目指している。この実現に向け、サステナビリティを根幹に据え、人財、技術、組織、顧客といった無形資産を原動力に事業を通じた技術革新でASVのサイクルを回していく。

サステナビリティについては、長期的な視点でマルチステークホルダーの期待を反映すべく、サステナビリティ諮問会議を新設し新たなマテリアリティを答申するなど、ガバナンス面の変化を遂げている。そして提供したい価値に基づき、4つの成長領域を設定し、事業モデルを変革（BMX）していく。具体的にはヘルスケア、フード&ウェルネス、ICT、グリーン。既存事業の成長ポテンシャルをBMXで加速させ、持続的な成長を実現させていく。その推進にはASVエンゲージメントを中心とした個人と組織の共成長が欠かせない。志を共有する人の共感をさらに結集し、ASV経営を進化させ、飛躍的・継続的に企業価値を向上させていく。

オムロン

社会と自社の持続可能性同期

山田 義仁 氏
オムロン
代表取締役社長

オムロンは2022年4月に長期ビジョン「Shaping the Future 2030」を掲げた。事業を通じた社会的課題の解決にまい進し、社会と自社のサステナビリティを同期させ、企業価値の最大化を目指すのが狙いだ。次の10年で取り組む社会的課題に「カーボンニュートラルの実現」「デジタル化社会の実現」「健康寿命の延伸」という3つを抽出。自社の強みを生かして解決に取り組むドメインとして、インダストリアルオートメーションやヘルスケアソリューションなど4つを選び、事業を通じたSXを推進している。

具体的な取り組みに「持続可能な社会を支えるモノづくりの高度化」への貢献がある。製造業にとって喫緊の課題である脱炭素・環境負荷の低減を、事業の競争力につなげ、付加価値向上と消費エネルギー削減の両立を図っていく。そこで、事業活動におけるエネルギー生産性の倍増を目指す国際イニシアティブ「EP100」に賛同し、40年までにエネルギー生産性200%達成を宣言。顧客との共創プロジェクトでは、装置の稼働状況と電力データを収集し見える化することで、電力使用量を32%減、排気系使用量を66%減と、工場の省電力化に貢献した。

パネルセッション

SXとは？
SXの重要性と、
SX推進に向けた課題や未来

ガイダンス活用促進

長宗 豊和 氏　経済産業省 経済産業政策局 企業会計室長
三瓶 裕喜 氏　アストナリング・アドバイザー 代表
溝内 良輔 氏　キリンホールディングス 常務執行役員
鈴木 美佳子 氏　リコー コーポレート執行役員 ESG・リスクマネジメント担当

モデレーター：伊藤 邦雄氏

伊藤レポート3.0公表の背景を長宗氏は、「日本企業の自己資本利益率（ROE）が伸び悩む中、サステナビリティ課題が一段と顕在化し企業経営を難しくしている。この状況を打破する切り札として、社会のサステナビリティを長期軸で内部化し収益化するSXの考え方を示した」と解説。

「企業のSXと人的資本の関係は」との伊藤氏の問いに対して、溝内氏は「キリンホールディングスは『社会課題の解決に取り組むことで社会と共に成長する』をパーパス（社会的存在意義）に掲げ、経営戦略とパーパス、つまりSXの同期化は表裏一体だ」と説明した。SDGs（持続可能な開発目標）の社内浸透は認知ではなく行動が有効とし、「顧客提案書の中にSDGs提案マップなどを入れて現場浸透を図っている」と話した。

鈴木氏は「リコーでは非財務ではなく3～10年後の将来財務と位置付けて『ESG目標』を設定している」とし、経営戦略にESG目標を織り込んでいると説明。リコージャパンでは「全国530人超の『SDGsキーパーソン』が現場に入ってSDGsの社員浸透や顧客のSDGs活動支援を行っている」と紹介。「SDGs提案を伴う商品が売れており、新たな顧客接点の創出にも寄与している」と話した。

三瓶氏は「2017年ごろのマテリアリティは、企業のサステナビリティ軸で腹落ちしやすかった。現在は、社会のサステナビリティが優先されがちで、立ち往生している企業が多い。従来の思考のままでは社会課題はコストとなり自社課題と矛盾するのが当たり前。日本企業の多くは真剣に悩んでいる」と語った。

また、SX推進の鍵を長宗氏は「価値協創ガイダンス2.0を活用した投資家との深い対話」とし、ガイダンスの活用促進に向け東京証券取引所と共同でSX銘柄の表彰制度を設けると紹介した。

これに対し三瓶氏は、「現状の対話は投資家の質問に企業が答えるQ&A中心で対話とは呼べない」とし、「企業価値向上の機会の話を企業はすべき。投資家も機会創出による価値向上の試算を見せるべき」と助言した。

最後に伊藤氏は、「SXをビッグチャンスに変え、SXと人的資本を2軸に、日本全体がポジティブな展望を抱けることを望む」とパネルを締めくくった。

パネルセッション

日米欧で比較した
日本企業に必要な変革とは？
SXの可能性

市場は積極姿勢を高く評価

津田 恵 氏　日立製作所 理事・サステナビリティ推進本部長
藤野 英人 氏　レオス・キャピタルワークス 代表取締役会長兼社長 最高投資責任者（CIO）
吉高 まり 氏　三菱UFJリサーチ&コンサルティング フェロー（サステナビリティ）／東京大学教養学部客員教授
吉川 徳明 氏　メルカリ 執行役員VP of Public Policy 兼 Public Relations

モデレーター：松本 裕子　日本経済新聞社 ESGエディター

パネル冒頭に吉高氏が、サステナビリティ経営が必須事項となっている背景について説明。「SXへと果敢に取り組む企業が市場から評価されている」と話し、社会と企業のサステナビリティを同期化させる重要性を訴えた。それを受けて、津田氏が「昨年4月に発表した中期経営計画でプラネタリー・バウンダリーの範囲内での環境・社会の維持、一人ひとりが活躍できるウェルビーイングの2つを柱に持続可能な社会実現に向け、SXを推進している」と日立製作所の取り組みを紹介。一方吉川氏は「メルカリのビジネスはモノの循環を通じた循環型社会の実現そのもの」と語り、サステナビリティとの親和性の高さを主張した。

松本が「投資家の立場から日本企業のSXの現状をどう見ているか」と藤野氏に問いかけると、同氏は「多くの日本企業が純資産倍率（PBR）で1倍を割っている現状から、SXの浸透度は低い」と指摘。しかし価値協創ガイダンスが公表され、企業と投資家がともに持続的成長の推進に取り組み始めている現状については評価した。

グローバルでのSXへの取り組みについて、欧州では政府と企業が一体となって市場づくりを行っており、米国はマーケットドリブンで動いていると吉高氏が解説。藤野氏は「投資家のESG（環境・社会・企業統治）やSDGsへの関心は高まる一方、ウオッシュ（見せかけ）が発生している」と語った。

国際企業としての情報開示対応を聞かれた津田氏は「現状は個別対応しているが、開示ルールなどグローバルに統一した基準が必要」と答え、同意した吉川氏は「文化的背景が異なるのでもっと議論すべき」と訴えた。それに対し、吉高氏が昨年12月に金融庁が「ESG評価・データ提供機関に係る行動規範」を公表したと紹介。藤野氏は「意識の高い若者への対応が必要」と指摘した。

最後に今後のSX推進への展望を聞かれ、「DXをドライバーに貢献したい」（津田氏）「幅広いステークホルダーと協業して対応」（吉川氏）「価値共創へパートナーとしての役割を果たす」（藤野氏）とそれぞれ回答。吉高氏からは、日本企業がSXで成功するには「人材ポートフォリオの再編が非常に重要なポイントになる」と指摘があった。

広　告　企画・制作＝日本経済新聞社Nブランドスタジオ

主催：日本経済新聞社　共催：経済産業省

経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry

本シンポジウムは日経チャンネルでアーカイブ視聴できます　日経チャンネル　https://channel.nikkei.co.jp/sxsymposium2023/

【参考】募集広告

（日本経済新聞　2023年1月18日朝刊 5段）

【参考】募集広告

（日本経済新聞　1月23日朝刊 5段）

（日本経済新聞　2月1日朝刊 5段）

【参考】当日広告

（日本経済新聞　2月10日朝刊 15段）

Sustainability SX Transformation シンポジウム

～SX推進の未来と企業価値創造～

持続可能性を基本に、経営を変革する新たな戦略、SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション）をテーマにシンポジウムを開催します。

2023 2/10 金 13：00～17：30

本日開催

開催形式：リアル&Web ハイブリッド開催

参加無料

こちらからご視聴下さい。

https://channel.nikkei.co.jp/sxsymposium2023/

または 日経チャンネル 検索

主催：日本経済新聞社
共催：経済産業省

経済産業省

＊プログラムは変更されることがあります。ご了承ください。

◉挨拶&講演

13：00～13：10／開会挨拶

西村 康稔氏
経済産業大臣

13：10～13：40／基調講演

「SXがなぜ必要か、伊藤レポート3.0より」
伊藤 邦雄氏
TCFDコンソーシアム会長
一橋大学 CFO 教育研究センター長

13：40～14：10／事例講演①

藤江 太郎氏
味の素
取締役／
代表執行役社長／
最高経営責任者

14：10～14：40／事例講演②

山田 義仁氏
オムロン
代表取締役社長

◉パネルセッション

14：50～16：10／パネルセッション①

「SXとは? SXの重要性と、SX推進に向けた課題や未来」

◎モデレーター：伊藤 邦雄氏
◎パネリスト

長宗 豊和氏
経済産業省 経済産業政策局
企業会計室長

三瓶 裕喜氏
アストナリング・アドバイザー
代表

溝内 良輔氏
キリンホールディングス
常務執行役員

鈴木 美佳子氏
リコー コーポレート執行役員・
ESG・リスクマネジメント担当

16：10～17：30／パネルセッション②

「日米欧で比較した日本企業に必要な変革とは? SXの可能性」

◎モデレーター：松本 裕子 日本経済新聞社 ESGエディター
◎パネリスト

津田 康氏
日立製作所 理事・
サステナビリティ推進本部長

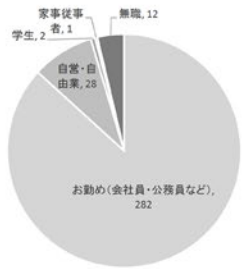
藤野 英人氏
レオス・キャピタルワークス
代表取締役会長兼社長
最高投資責任者（CIO）

吉高 まり氏
三菱UFJリサーチ&コンサルティング
フェロー（サステナビリティ）
東京大学教養学部客員教授

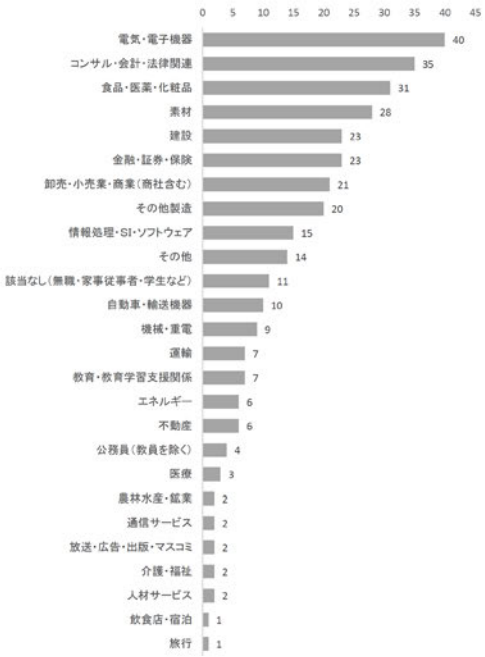
吉川 徳明氏
メルカリ 執行役員
VP of Public Policy 兼
Public Relations

開催後アンケート
【会場聴講＋オンライン視聴】（回答者：325件）

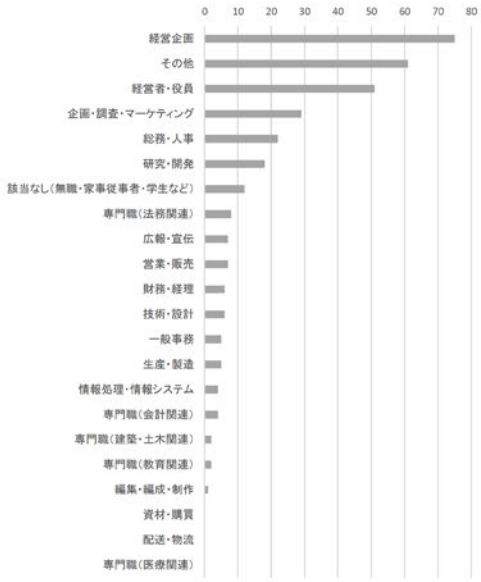
Q1.職業	
項目名	件数
お勤め（会社員・公務員など）	282
自営・自由業	28
学生	2
家事従事者	1
無職	12



Q2.業種	
項目名	件数
電気・電子機器	40
コンサル・会計・法律関連	35
食品・医薬・化粧品	31
素材	28
建設	23
金融・証券・保険	23
卸売・小売業・商業（商社含む）	21
その他製造	20
情報処理・ＳＩ・ソフトウェア	15
その他	14
該当なし（無職・家事従事者・学生など）	11
自動車・輸送機器	10
機械・重電	9
運輸	7
教育・教育学習支援関係	7
エネルギー	6
不動産	6
公務員（教員を除く）	4
医療	3
農林水産・鉱業	2
通信サービス	2
放送・広告・出版・マスコミ	2
介護・福祉	2
人材サービス	2
飲食店・宿泊	1
旅行	1

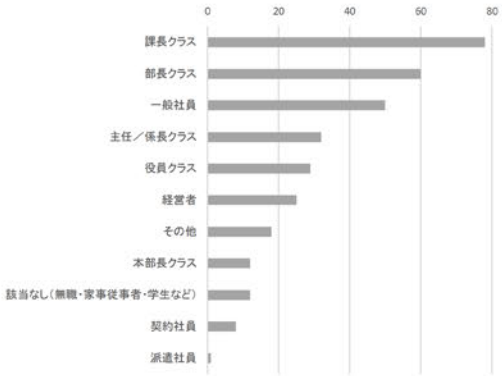


Q3.職種	
項目名	件数
経営企画	75
その他	61
経営者・役員	51
企画・調査・マーケティング	29
総務・人事	22
研究・開発	18
該当なし（無職・家事従事者・学生など）	12
専門職（法務関連）	8
広報・宣伝	7
営業・販売	7
財務・経理	6
技術・設計	6
一般事務	5
生産・製造	5
情報処理・情報システム	4
専門職（会計関連）	4
専門職（建築・土木関連）	2
専門職（教育関連）	2
編集・編成・制作	1
資材・購買	0
配送・物流	0
専門職（医療関連）	0

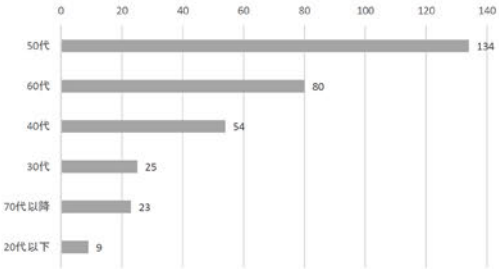


シンポジウム結果概要

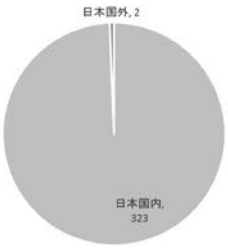
Q4.役職	
項目名	件数
課長クラス	78
部長クラス	60
一般社員	50
主任／係長クラス	32
役員クラス	29
経営者	25
その他	18
本部長クラス	12
該当なし（無職・家事従事者・学生など）	12
契約社員	8
派遣社員	1



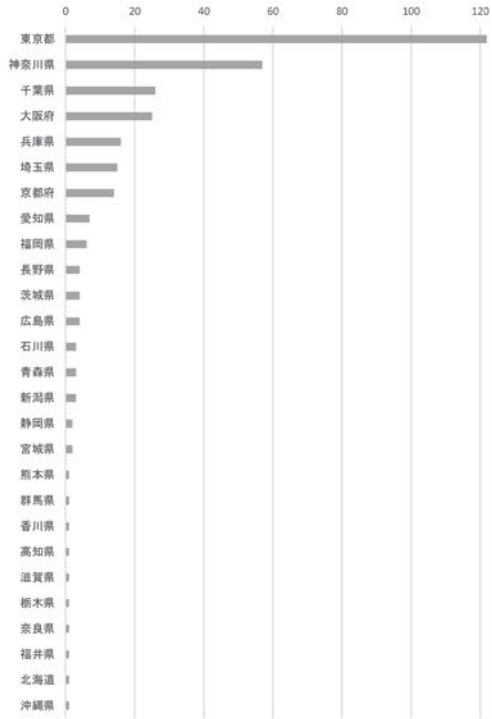
Q5.年代	
項目名	件数
50代	134
60代	80
40代	54
30代	25
70代以降	23
20代以下	9



Q6.お住まいの地域	
項目名	件数
日本国内	323
日本国外	2



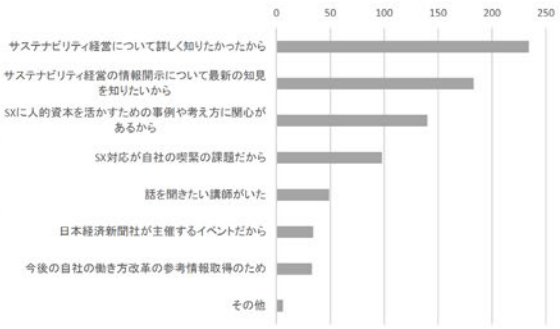
Q7.お住まいの都道府県	
項目名	件数
東京都	122
神奈川県	57
千葉県	26
大阪府	25
兵庫県	16
埼玉県	15
京都府	14
愛知県	7
福岡県	6
長野県	4
茨城県	4
広島県	4
石川県	3
青森県	3
新潟県	3
静岡県	2
宮城県	2
熊本県	1
群馬県	1
香川県	1
高知県	1
滋賀県	1
栃木県	1
奈良県	1
福井県	1
北海道	1
沖縄県	1



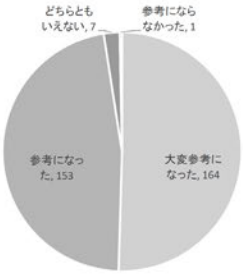
シンポジウム結果概要

Q8.聴講理由を教えてください。（複数選択可）	
項目名	件数
サステナビリティ経営について詳しく知りたかったから	234
サステナビリティ経営の情報開示について最新の知見を知りたいから	183
SXに人的資本を活かすための事例や考え方に関心があるから	140
SX対応が自社の喫緊の課題だから	98
話を聞きたい講師がいた	49
日本経済新聞社が主催するイベントだから	34
今後の自社の働き方改革の参考情報取得のため	33
その他	6

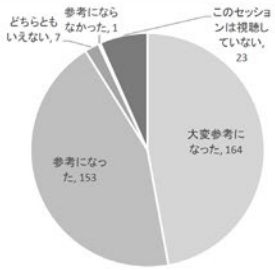
※その他別紙記載あり



Q9.本日のイベント全体について、感想をお聞かせください。	
項目名	件数
大変参考になった	164
参考になった	153
どちらともいえない	7
参考にならなかった	1



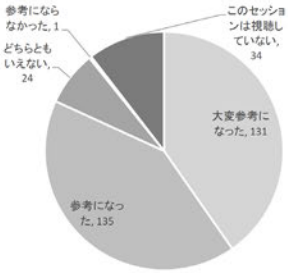
Q10.各セッションに関する感想をお聞かせください。 【基調講演】一橋大学 CFO 教育研究センター長　伊藤 邦雄氏	
項目名	件数
大変参考になった	164
参考になった	153
どちらともいえない	7
参考にならなかった	1
このセッションは視聴していない	23



Q11.よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）【基調講演】一橋大学 CFO 教育研究センター長　伊藤 邦雄氏

回答61件

Q12.各セッションに関する感想をお聞かせください。 【事例講演①】味の素 代表執行役社長　藤江 太郎氏	
項目名	件数
大変参考になった	131
参考になった	135
どちらともいえない	24
参考にならなかった	1
このセッションは視聴していない	34



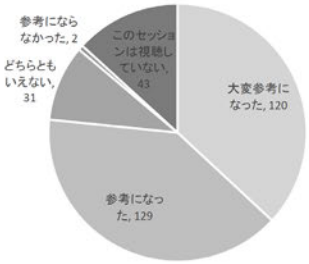
Q13.よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）【事例講演①】味の素 代表執行役社長　藤江 太郎氏

回答40件

シンポジウム結果概要

Q14.各セッションに関する感想をお聞かせください。
【事例講演②】オムロン 代表取締役社長　山田 義仁氏

項目名	件数
大変参考になった	120
参考になった	129
どちらともいえない	31
参考にならなかった	2
このセッションは視聴していない	43

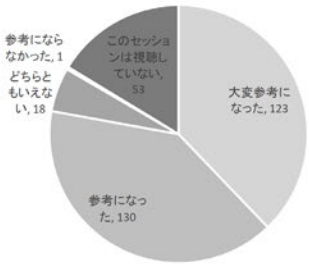


Q15.よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）
【事例講演②】オムロン 代表取締役社長　山田 義仁氏

回答38件

Q16.各セッションに関する感想をお聞かせください。
【パネルセッション①】
「ＳＸとは？ＳＸの重要性と、ＳＸ推進に向けた課題や未来」

項目名	件数
大変参考になった	123
参考になった	130
どちらともいえない	18
参考にならなかった	1
このセッションは視聴していない	53

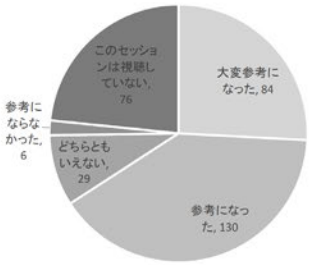


Q17.よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）
【パネルセッション①】
「ＳＸとは？ＳＸの重要性と、ＳＸ推進に向けた課題や未来」

回答27件

Q18.各セッションに関する感想をお聞かせください。
【パネルセッション②】
「日米欧で比較した日本企業に必要な変革とは？ＳＸの可能性

項目名	件数
大変参考になった	84
参考になった	130
どちらともいえない	29
参考にならなかった	6
このセッションは視聴していない	76

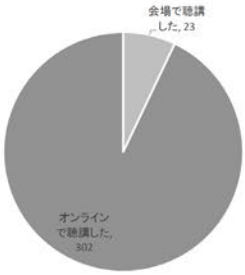


Q19.よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）
【パネルセッション②】
「日米欧で比較した日本企業に必要な変革とは？ＳＸの可能性

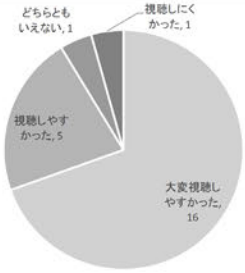
回答24件

シンポジウム結果概要

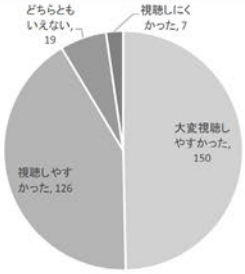
Q20.本日の聴講方法についてお伺いします。	
項目名	件数
会場で聴講した	23
オンラインで聴講した	302



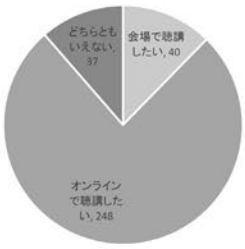
Q21.今回の会場の視聴はいかがでしたか。	
項目名	件数
大変視聴しやすかった	16
視聴しやすかった	5
どちらともいえない	1
視聴しにくかった	1



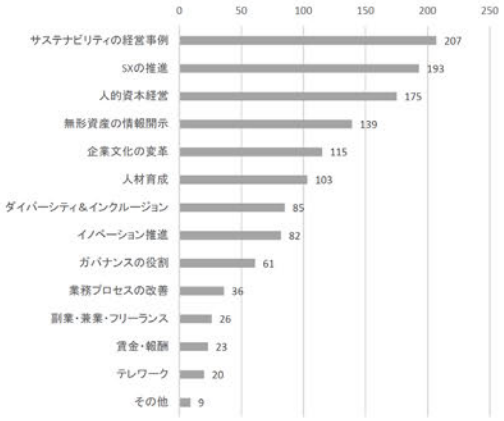
Q22.今回のオンライン配信の視聴はいかがでしたか。	
項目名	件数
大変視聴しやすかった	150
視聴しやすかった	126
どちらともいえない	19
視聴しにくかった	7



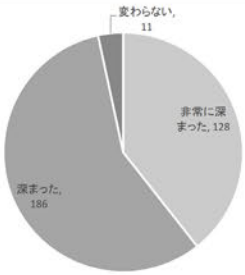
Q23.今後のイベント聴講についてご意見をお聞かせください。	
項目名	件数
会場で聴講したい	40
オンラインで聴講したい	248
どちらともいえない	37



Q24.今後シンポジウムで聞いてみたい内容をお選びください。（複数回答可）	
項目名	件数
サステナビリティの経営事例	207
SXの推進	193
人的資本経営	175
無形資産の情報開示	139
企業文化の変革	115
人材育成	103
ダイバーシティ＆インクルージョン	85
イノベーション推進	82
ガバナンスの役割	61
業務プロセスの改善	36
副業・兼業・フリーランス	26
賃金・報酬	23
テレワーク	20
その他	9



Q25.今回のシンポジウムをご覧いただき、SXについての理解・興味は深まりましたか。	
項目名	件数
非常に深まった	128
深まった	186
変わらない	11



Q26.その他、お気づきの点や今後知りたい情報などございましたらご自由にご記入ください。

回答33件

（１）SXの認知度向上、正確な理解の促進

SXシンポジウム開催前に実施した「SX普及に向けた調査」によると、ビジネスパーソン378名のうち、「SXとは何か」ということについてESG等との違いも含めて正しく理解できていない、もしくは全く聞いたことがない、と回答した人が半数以上（197名）だった。

シンポジウム開催後の調査では、SXの重要性に対する理解が深まったといった声が多く寄せられ、シンポジウムを通じて、参加者の理解が深まる結果となった。今後も、各企業におけるSX普及・促進のためには、SXを正しく理解してもらうことが必要不可欠であり、継続的に情報発信を行っていく必要があると考える。

（２）SX普及の促進

SXシンポジウム開催前に実施した「SX普及に向けた調査」によると、ビジネスパーソン378名のうち、「勤め先でSXの取り組みを実施している」と回答した人はおよそ47%で、半数以上が「実施していない」「実施しているか分からない」と回答した。「SXを実施していない」理由として最も多く挙げられたのは、「どのような取り組みをすべきか分からないから（45%）」だった。加えて、日本企業のSXと欧米企業のSXを比較した際に、7割以上が「日本企業のSXは欧米企業のSXに比べて遅れている」と回答している。

シンポジウム開催後の調査では、企業、投資家などの多岐にわたる講演者の話を通じてSX推進の重要性に対する理解が深まったといった声が多く寄せられ、シンポジウムがSXの普及促進を後押しできたことがうかがえる。今後の更なる普及促進のために、このような情報発信の場を定期的に設けることが有用だと考えられる。

（様式２）

二次利用未承諾リスト

報告書の題名　ＳＸの普及促進に関わる調査に関する報告書

委託事業名　令和4年度 産業経済研究委託事業

受注事業者名　株式会社日経イベント・プロ

頁	図表番号	タイトル
9	全て	シンポジウム結果概要（日本経済新聞　3月17日朝刊掲載　15段）
10	全て	【参考】募集広告（日本経済新聞　1月18日）
11	全て	【参考】募集広告（日本経済新聞　1月23日、2月1日）
12	全て	【参考】当日広告（日本経済新聞　2月10日朝刊 15段）